

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 9月 5日

【評価実施概要】

事業所番号	3091500011		
法人名	有限会社ささゆり		
事業所名	グループホーム有田ささゆり		
所在地	和歌山県有田市宮原町新町225番地 (電話) 0737-88-8882		
評価機関名	社団法人日本社会福祉士会和歌山県支部第三者評価委員会		
所在地	和歌山市太田421-1		
訪問調査日	平成21年9月5日	評価確定日	平成21年9月30日

【情報提供票より】 (平成21年8月22日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18年 10月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 10人, 非常勤 6人, 常勤換算 6.15人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	2 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (200,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		950 円

(4) 利用者の概要 (8月22日現在)

利用者人数	18名	男性 4名	女性 14名
要介護1	0	要介護2	5
要介護3	6	要介護4	7
要介護5	0	要支援2	0
年齢	平均 85.05 歳	最低 75 歳	最高 92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	生駒内科医院 宮井歯科医院 萬谷医院
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの立地は、ミカン畑や住宅の中にあり緑も豊かで静かな環境となっている。高い塀等もなく、ガーデニングや家庭菜園等も施されており、入口から開放的でありながらも落ち着いたあたたかい空間となっている。近隣との関係も良好であり、地域に溶け込んだホームとなっている。運営者の体験を通じた理念を職員も十分に理解し、日々実践していこうという姿勢がみられる。職員はケアに対して熱心であり、あたたかく落ち着いた環境を利用者と共につくりあげていこうとしている。ユニット間も構造上の工夫や職員の配置の工夫により交流やコミュニケーションが充分図られている。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4) 前回での課題に対しては、管理者、職員がひとつとなり、取り組んでいる。日常的な外出支援に関しては朝、夕、近隣への散歩を行うなど外部評価を前向きに捉え、サービスの質を向上しようとする姿勢がみられた。
	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4) 全体での会議や日々の申し送りの中でも理解できるように話し合う機会を設けたり、その話し合いを文章にして再確認を行う等、一貫性のある取り組みを行っている。各職員が自己評価項目に意見を出しながら作成している。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6) 家族や自治会長が出席しているとともに、地域包括支援センターや市も協力的である。開催日時も何かの行事の後すぐに行う等の配慮を行い、常に多くの出席者のもとで会議ができるようにしている。家族、地域、市町村と連携がよくとれている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8) 2ヶ月に1回の「ささゆりだより」の発行だけでなく、運動会等の家族参加可能な行事の開催と通じて、報告を行っている。3ヶ月に1回は家族会を開いており、意見を表明する機会を多く設けている。
重点項目③	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3) 自治会活動(清掃活動等)だけでなく土地の祭りや集まりにも積極的に入居者と共に参加している。また、地域の中学生や幼稚園児の慰問など、ホームでの行事等に地域の方々が積極的に参加していただけるような取り組みを行っている。季節にあわせてや個人に合わせて少人数での近隣への散歩なども行っている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営者・職員が理念をきちんと認識し、それを元に施設運営を進めている。日々の実践にも充分活かされている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	定例会議（毎月・毎日）においてもその都度確認し合っている。困難にあたった時も、「理念を思い出してケアにあたる」との言葉もあり、充分に取り組まれている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会活動（清掃活動等）だけでなく土地の祭りや集まりにも積極的に入居者と共に参加している。また、地域の中学生や幼稚園児に来てもらったりするなど、ホームでの行事等に地域の方々が積極的に参加していただけるような取り組みをしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全体での会議や日々の申し送りの中でも理解できるように話し合う機会を設けたり、その話し合いを文章にして再確認を行う等、一貫性のある取り組みを行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族や自治会長にも出席していただき、開催日時も何かの行事の後すぐに行う等の配慮を行い、常に多くの出席者の元で会議ができるようにしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターの出席は勿論であるが、ホームからの働きかけもあり、市も協力的で会議に出席となっている。日々、関係が保てるよう努力している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	2か月に一回の「たより」の発行だけでなく、運動会等の家族参加可能な行事の開催を通じて、報告を行っている。面会時には確実にご本人の状態をお伝えする等もしており、面会の難しいご家族には最低でも月一回の電話連絡を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	3か月に一回は家族会を開いており、出席者も多い。運動会等、ご家族の参加の多い行事等の後すぐに会を開く等の工夫をしており、意見等を表明する機会を多く設けている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	元々の建物の構造やしつらえの工夫により、両方のユニット職員が入居者と関われるようにしており、常に影響を少なくできるように配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会へも積極的に参加できるような体制にしており、研修会の開催の通知等も全職員に行き渡るようにしている。また、研修後も伝達講習や文書による共有を行い、職員全体のレベルアップが図れるようにしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の施設との交流を行うなど、施設間でのやり取りは行っている。また、今後も広く交流していきたいという意欲は感じられる。	○	近隣施設との交流を行ってはいるが、ネットワークづくりや勉強会と言うところまでは至っていない。運営者も職員も向上したいという意欲が感じられるため、今後に期待がもたれる。
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前にもご家族やご本人にも来ていただく等の取り組みも行われており、今までの生活を大切にできるように物品の持ち込みや好きな物の聞き取り等も行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員全員が、利用者一人ひとりを理解できるように努め、時や場に応じての声掛けや対応を押し付けにならないように配慮しながら行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご自身でお話しできる人には勿論であるが、できない人にも時間がかかっても少しずつ聞き取ったり、ご家族に聞かせていただいたりと日々努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	申し送りや会議なども密に行い、職員だけでなく運営者も入居者の状態や状況を把握しており、計画等にも十分に反映できるようにしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日常的に入居者の方の状況を把握しており、必要に応じてすぐに計画に反映できるようにしており、実際、計画の見直しをしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居時、その後においても入居者やご家族の希望や要望を聞き取りながら、通院等も定期・不定期に関わらず対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にもかかりつけ医の確認を行い、できるだけ希望に沿うようにしている。協力医師も近隣の方をお願いしており、日頃から連携し体制を整えている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期の受け入れは今のところはないが、受け入れの準備として職員が研修を重ねたり、入居者やご家族から聞き取りを行うなどして状態に合わせた対応ができるようにしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	定例会議や申し送りの中でも、職員自身がプライバシー確保ができているかの確認を行っており、少しのことでも見逃さない方法を取っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先とならないように職員同士での声掛けを行い、入居者の方とは話しをする等触れあう機会を多く持ち、一人ひとりのペースを守れるようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と献立を決めたり、できる人は片付けを行う等があり、食事を楽しむ支援はできている。好みを重視することによって、味付けが濃くなったり、同じ食材が増えたりしている。	○	楽しみの重視で、味付けや食材、栄養等に配慮が足りなくなっている面を職員が一緒に食事をするすることで、実際の食事内容を確認しながら配慮し、又、より楽しい雰囲気での食事となることを期待する。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は決めてはいるが、それにとらわれずにその方の気持ちに沿って時間をずらしたり、日を変えたり等の工夫もしている。日中が基本としているが、入居者の希望によっては夜間の入浴も行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみや掃除等も行っているが、一人ひとりに合わせた内容や事柄を数多く準備している。家庭菜園等も玄関のすぐ近くで行えるようにするなどの工夫がある。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム全体としての外出だけでなく、季節に合わせてや個人に合わせた少人数の外出なども行っている。散歩も朝・夕する等している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は常に開放しており、圧迫感が全くない。出かけたいたい気持ちの利用者に対しても、制するのではなく、さりげない会話で落ち着けるようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎月一回、利用者と共に避難訓練を行い、職員は週一回確認訓練も行っている。地域の方にも日常から、協力要請を行っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの好みを把握した上での食事量の確認を行っている。水分等については、入居者全員に摂取を促しているも実際にどの程度摂取できたかまでの詳しい把握はできていない。	○	食事量、水分量の把握として、誰がいつ見ても明確にわかるものを準備して、確実な栄養摂取や水分確保ができることを期待する。
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掃除等も十分なされており、快適に生活できる空間づくりに努めている。トイレの問題もあるのであるが、臭いがこもっている。	○	トイレの臭いについては、場所等の問題もあるが臭気のこもらない工夫をすることで、より快適な生活空間となることを期待する。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、入居後の都度において、本人のこれまでの生活を把握し、使い慣れたものや好みのものを持ち込んだり使えるような配慮をしている。		

※  は、重点項目。